

2019年度 環境経営レポート

(対象期間:2019年8月1日~2020年7月31日)



鳥羽建設株式会社



エコアクション21
認証番号0012671

発行日:2020年10月31日

発行責任者: 菊井 研二

1 組織の概要

事業者名及び代表者名

鳥羽建設株式会社
代表取締役 中川 正和

所在地

本社 〒528-0067 滋賀県甲賀市水口町山3858番地281

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先(電話番号等)

環境管理責任者： 菊井 研二
連絡担当者： 谷口 絢子
連絡先：TEL 0748-63-4743
:Email taniguchi@tobakensetsu.jp

事業活動の内容(認証・登録範囲)

土木、とび・土工、石、鋼構造物、ほ装、しゅんせつ、塗装、水道施設工事業

建設業の許可

特定建設業 滋賀県知事 許可 第31195号

事業の規模【事業年度 8月1日～7月31日】

売上高 620 百万円/16期 (2019年)
工事件数 17 件/16期 (2019年)
全従業員 15 名 (2020年7月1日現在)
* 当社の決算期間は8月1日から翌年7月31日です

事業組織

面積：㎡	本社
事務所床面積	180
倉庫床面積	148
駐車場面積	1,115
従業員 名	15
認証・登録	○

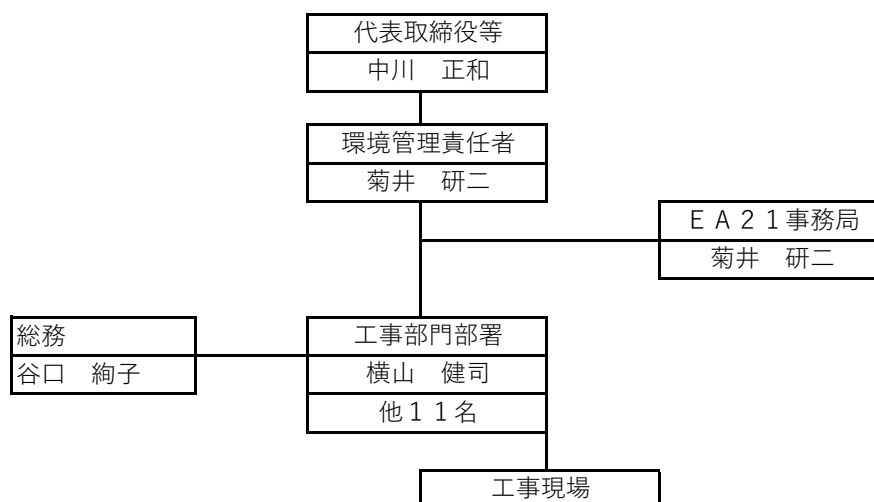
過去3年間の環境負荷の実績

	単位	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素の排出量	Kg-CO ₂	79,925	83,913	88,309
二酸化炭素排出量原単位	Kg-CO ₂ /百万円	235.1	150.7	142.4
廃棄物の排出量	t	123	249	258
水の使用量、排水量	m ³	430	452	91
化学物質の使用量	kg	3.7	3.4	14.0
使用電力排出係数	kg-CO ₂ /kWh	0.493	0.418	0.418

*このレポートの環境活動期間は2019年8月1日から2020年7月31日です。

*購入電力の排出係数は何れも関西電力調整後排出係数である。

EA21 実施体制組織図



※全従業員は、当社に構築された環境経営システムを理解し、策定された環境方針の下、環境目標の達成に向けて、環境活動計画に基づき、一致協力して環境取組を行う。

役割、責任及び権限一覧

担 当	内 容
代表取締役	①環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 ②環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する。 (資源には、人材、設備、費用、時間、専門的な技能、技術を含む。) ③環境管理責任者を任命する。 ④環境方針の策定・見直し及び従業員への周知を行なう。 ⑤代表者による全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者	①環境経営システムを構築し、実施し、管理する。 ②作成された環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し承認する。 ③法規制等の遵守状況をチェックする。 ④環境方針及び自己チェック等に基づき環境目標を設定し、作成された環境活動計画を確認し承認する。 ⑤環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。 ⑥問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行なう。 ⑦環境活動の取組結果を代表者へ報告する。 ⑧E A 2 1 に関する運用管理の体制を構築し、各責任者を任命する。
各部門長及び 工事現場代理人	①責任範囲の環境目標及び環境活動計画の実施とE A 2 1事務局への達成状況の報告。 ②責任範囲の問題点の発見、是正、予防処置。
E A 2 1 事務局	①環境経営システム運営のすべての事務を行なう。 ②環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する。 ③「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、環境管理責任者へ報告する。 ④環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告する。 ⑤文書及び記録の管理保管。 ⑥外部コミュニケーションの窓口。 ⑦内部コミュニケーションの運営管理。 ⑧従業員に対する教育訓練の実施。 ⑨特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録。

鳥羽建設株式会社

環境経営方針

環境理念

当社は、地球規模での環境保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、SDGsの理念を基に事業活動において、環境に配慮した循環型社会の構築に貢献します。

行動指針

当社は、近畿圏や滋賀県で橋梁補強及び補修の建設工事を行っています。この事業活動における環境への影響を理解し、環境経営を優先課題と位置づけて、従業員と協力し、EA21環境経営システムを構築運用し、継続的改善と汚染の予防に努め、以下の事項について自主的、積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 当社は、次の環境経営活動を計画的に取組み実施します。
 - ☆ 事務所や現場事務所での電気使用量及び重機車両等の燃料使用量を減量し、CO₂の排出量を削減します。
 - ☆ 建設現場の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。
 - ☆ 建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。
 - ☆ 施工で使用する建材等の化学物質の適正管理及び可能な場合削減に取り組みます。
 - ☆ 環境に配慮した施工を推進します。
 - ☆ グリーン購入を推進します。
 - ☆ 環境経営活動の社会貢献を推進します。
3. この環境経営方針は全従業員に周知、徹底します。

制定：2018/7/1

改訂：2019/7/1

代表取締役 中川正和

3 環境経営目標とその実績

2018年の実績を基準値として、2019年から2021年までの目標を設定し、環境経営活動に取り組んでいます。尚、このレポートでは、2019年8月1日から2020年7月31日までの1年間の運用実績について取りまとめました。

		売上高 (百万円)	557	620	次年度	中長期	
方針	取組項目	年度	2018年 (基準年)	2019年 (取組年)		2020年	2021年
		単位	(基準値)	(目標)	(対目標値比) (実績)	(目標)	(目標)
事務所や現場事務所での電気使用量及び重機車両等の燃料使用量を減量し、CO ₂ の排出量を削減します。	電力消費量の削減 (kWh)	削減率 (%)		1%	106%	2	3
		消費量	20,513	20,307	21,481	20,103	19,898
		(kg-CO ₂)	8,574	8,489	8,979	8,403	8,317
		売上高原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	15.4	13.7	14.5		
	ガソリン消費量の削減 (単位:L)	%		1%	118%	2	3
		消費量	16,896	16,727	19,722	16,558	16,389
		(kg-CO ₂)	39,198	38,806	45,756	38,414	38,022
		売上高原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	70.4	62.6	73.8		
	軽油消費量の削減 (単位:L)	%		1%	92%	2	3
		消費費	13,538	13,403	12,277	13,267	13,132
		(kg-CO ₂)	34,928	34,579	31,676	34,230	33,880
		売上高原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	62.7	55.8	51.1		
	灯油消費量の削減 (単位:L)	%		1%	159%	2	3
		消費量	478	473	752	469	464
		(kg-CO ₂)	1,191	1179	1872	1167	1155
		売上高原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	2.1	1.9	3.0		
	二酸化炭素排出量の削減	%		1%	106%	2	3
		(kg-CO ₂)	83,892	83,053	88,282	82,214	81,375
		売上高原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	150.6	134.0	142.4		
	建設現場の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	分別及びリサイクルの推進 (単位:%)	%	100%	80%	98%	90%
建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	濁水防止の100%適正監視 (単位:%)	%	100%	100%	100%	100%	100%
	事業所利用水の節水 (単位:m ³)	%		1%	20%	2	3
		(m ³ /年)	452	448.0	91.0	443.0	438.4
環境に配慮した施工を推進します。	環境配慮施工の100%推進 (単位:%)	%	100%	100%	100%	100	100
グリーン購入を推進します。	事務用品のグリーン商品の積極的購入	目標は設定しない					
環境経営活動の社会貢献を推進します。	地域の美化活動に参加する。 (単位:回)	回		12	100%	12	12
		(以上/年)	12	12	12		

目標の説明や補足事項

- 購入電力の排出係数は関西電力2017年度の調整後排出係数0.418kg-CO₂/kWhを使用した。
- LPGは事務所湯茶用の使用のみであり目標は設定しない。(CO₂の把握は行う)
- 廃棄物排出量は、事業活動からの廃棄物に対して建設リサイクル80%推進を目標とする
- 水使用量については、事務所敷地内における水使用量の削減及び建設現場の濁水監視100%を実施する。濁水監視は全建設現場を対象(分母)に水質汚染事故及び苦情・指導のあった建設現場の比率で評価する。
- 環境配慮施工では低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車輛を100%使用する。
- グリーン購入は、事務用品について取組む
- 社会貢献活動は美知メセナ活動で地域の美化活動に参加する。
- 化学物質の使用量は少量で又、契約上の指定製品(塗料)に含有されており削減は困難で目標に掲げず適正管理を行う。
- 上記の目標のほか、作業場の環境及び品質安全向上のために3S活動(整理、整頓、清掃)に取り組む

4 環境経営計画

方針	取組項目	活動計画の内容	責任部門・担当者
事務所や現場事務所での電気使用量及び重機車両等の燃料使用量を減量し、CO ₂ の排出量を削減します。	電力消費量の削減 (kWh)	① 不用時の消灯 ② 機械設備・OA機器などのスイッチオフ ③ エアコンの温度管理 (夏季28℃±1℃)	事務 谷口絢子
	ガソリン消費量の削減 (単位:L)	① 暖機運転・アイドリングストップ ② 環境に配慮した稼働(エコドライブ) ③ 不要積載物の有無、タイヤ空気圧の確認	工事部 横山健司
	軽油消費量の削減 (単位:L)		
	灯油消費量の削減 (単位:L)	① ストープの温度管理 (冬季20℃±1℃)	
建設現場の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	分別及びリサイクルの推進 (単位:%)	廃棄物 ① 使用済みコピー用紙を再利用する。 ② 無駄な資機材を購入しない。 ③ 廃棄物を分別し、リユース・リサイクルを徹底する。	工事部 横山健司
建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	事業所利用水の節水 (単位:m ³)	① 洗車の水使用量を減らす。 ② 水を流しながらの洗い物はしない。	工事部 横山健司
	濁水防止の100%適正監視 (単位:%)	① 建設現場で濁水防止の適正監視する	工事部 横山健司
環境に配慮した施工を推進します。	環境配慮施工の100%推進 (単位:%)	① 環境配慮施工の推進 低騒音・低振動型重機の使用 ガス規制適合車の使用	② ③ 排 工事部 横山健司
グリーン購入を推進します。	事務用品のグリーン商品の積極的購入	① 事務用品のグリーン商品の購入	事務 谷口絢子
環境経営活動の社会貢献を推進します。	地域の美化活動に参加する。(単位:回)	① 美知メセナ活動や地域の清掃活動に参加する。	事務 谷口絢子

取組の紹介

- 1 「美知メセナ活動」とは滋賀県と協定を締結して、県道等の清掃活動をボランティアで行う制度です。
- 2 滋賀県主催の「びわ湖環境の日一斉清掃」や甲賀市主催の地域環境美化活動である「ごみゼロ大作戦」に積極的に参加する。

5 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

方針	取組項目	年度	2019年（取組年）		取組の評価	担当責任者			
			（目標）	（対目標値比） （実績）					
事務所や現場事務所での電気使用量及び重機車両等の燃料使用量を減量し、CO ₂ の排出量を削減します。	電力消費量の削減 （kWh）	%	1%	106%	電力使用の内訳を比較すると事務所の電力使用量は基準年比25%削減できたが現場の電力は基準年比132%増となった。今後は現場でもエコの意識を高めていきたい。	事務 谷口絢子			
		消費量	20,307	21,481					
		（kg-CO ₂ ）	8,489	8,979					
	ガソリン消費量の削減 （単位：L）	%	1%	118%		軽油は目標達成となったが、ガソリンは工事車両の増加（5台→12台）や遠隔地の工事現場が多く未達となった。灯油は現場使用量が増加して未達となった。工事場所や工事内容などによって増減するが、建設機械や工事車両乗り合わせ、のアイドリングストップやエコドライブなど今後も継続して取り組んで行く。	工事部 横山健司		
		消費量	16,727	19,722					
		（kg-CO ₂ ）	38,806	45,756					
	軽油消費量の削減 （単位：L）	%	1%	92%			軽油は目標達成となったが、ガソリンは工事車両の増加（5台→12台）や遠隔地の工事現場が多く未達となった。灯油は現場使用量が増加して未達となった。工事場所や工事内容などによって増減するが、建設機械や工事車両乗り合わせ、のアイドリングストップやエコドライブなど今後も継続して取り組んで行く。	工事部 横山健司	
		消費量	13,403	12,277					
		（kg-CO ₂ ）	34,579	31,676					
	灯油消費量の削減 （単位：L）	%	1%	159%				軽油は目標達成となったが、ガソリンは工事車両の増加（5台→12台）や遠隔地の工事現場が多く未達となった。灯油は現場使用量が増加して未達となった。工事場所や工事内容などによって増減するが、建設機械や工事車両乗り合わせ、のアイドリングストップやエコドライブなど今後も継続して取り組んで行く。	工事部 横山健司
		消費量	473	752					
		（kg-CO ₂ ）	1179	1872					
二酸化炭素排出量の削減	%	0.01	106%	軽油は目標達成となったが、ガソリンは工事車両の増加（5台→12台）や遠隔地の工事現場が多く未達となった。灯油は現場使用量が増加して未達となった。工事場所や工事内容などによって増減するが、建設機械や工事車両乗り合わせ、のアイドリングストップやエコドライブなど今後も継続して取り組んで行く。	工事部 横山健司				
	（kg-CO ₂ ）	83,053	88,282						
建設現場の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	分別及びリサイクルの推進 （単位：%）	% （%/年）	80%		98%				現場の廃棄物は分別を行い、建設リサイクルに努めた。また事務所内のごみについても分別、リサイクルを心がけた
建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	事業所利用水の節水 （単位：m ³ ）	%	1%		20%	現場使用の水が減少した。又、事務所、現場全員で節水に心がけた。			工事部 横山健司
		（m ³ /年）	448.0		91				
建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	濁水防止の100%適正監視 （単位：%）	%	100%		100%	現場での濁水防止の点検、監視を徹底して実施した			工事部 横山健司
		（%/年）							
環境に配慮した施工を推進します。	環境配慮施工の100%推進 （単位：%）	%	100		100%	低騒音、低振動型重機を使用し環境配慮施工に努めた	工事部 横山健司		
		0							
グリーン購入を推進します。	事務用品のグリーン商品の積極的購入	目標は設定しない			エコマークの付いた事務用品の購入を心がけた	事務 谷口絢子			
環境経営活動の社会貢献を推進します。	地域の美化活動に参加する。 （単位：回）	回数			100%	毎月、美知メセナ活動を行い、環境活動の社会貢献を推進した。今後も継続する。	事務 谷口絢子		
		（回/年）	12		12				

次年度の主な取組内容

- 1 二酸化炭素排出量削減取り組みでは、車輛・重機等のアイドリングストップやエコドライブ等の目標達成手段を実施する
- 2 廃棄物は分別を実施して建設リサイクル100%に取り組む
- 3 水使用量の削減では使用量削減に努める。また建設現場の濁水監視100%を実施する
- 4 環境配慮施工では低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車輛を100%使用する。
- 5 グリーン購入は、事務用品について取り組む
- 6 環境活動は美知メセナ活動で地域の美化活動に参加する

6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	適正処理
自動車リサイクル法	廃自動車のリサイクル券	遵守
家電リサイクル法	家電リサイクル券	遵守
建設リサイクル法	建設廃棄物のリサイクル推進	遵守
騒音規制法	対象特定施設・工事の届出、規制値の遵守	遵守
振動規制法	対象特定施設・工事の届出、規制値の遵守	遵守
水質汚濁防止法	事故時の措置	遵守
消防法	対象危険物保管の届出	遵守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の定期・簡易点検実施	遵守
地域ごみ出しルール	一般廃棄物の分別、収集、排出	適正処理
化学物質管理法（PRTR制度）	化学物質の適正管理	適正管理

注：適用される法規制等と遵守状況は、環境関連法規等の遵守状況のチェック結果に基づき記載します。

7 代表者による全体の評価と見直し・指示

今年度は軽油は建設機械の使用が比較的少なく目標達成となったが、工事車輛の増加（5台→12台）及び遠隔地の建設現場が多く乗り合わせやエコドライブの周知を行ったが工事車両のガソリンが増加した。又、工事が冬季に多くなり電力及び灯油使用量が現場ハウスで目標を超過し、結果として二酸化炭素排出量も目標未達となった。しかし売上高原単位では基準年5.4%低減となった。その他は目標はほぼ目標を達成しており従業員の取り組みにも問題はなく現在の取り組みを強化し目標達成を目指して行きたい。又、環境経営方針、経営目標、組織体制の変更は当面必要としない。